

【書・評】

『9・11テロ疑惑・国会追及』

参議院議員 藤田幸久 編著

出版・クラブハウス

定価1500円＋税

イラク戦争だけでなく9・11テロの検証を呼びかける

評者 福田誠之郎



ヘイギリスが参戦したことを問う、独立調査委員会を設置し調査を開始した。ブレア前政権による参戦の経緯に不明な点が多いことから設置に踏み切ったもので、ブレア前首相だけでなく、アメリカの政府関係者も調査対象

会では当時の外務省の国防情報部長や国連大使が証言し、「正当性には疑問」（開戦時のグリーンストック元国連大使）といった証言がなされ、1月に予定されるブレア前首相の証言が注目される。
なおオランダはイラク戦争に賛成し1100人を派遣したが、政府の独立調査委員会は1月12日に「イラク戦争は国際法違反」との報告書を公表した。

いまイギリスで、なぜイラク戦争

となる。

に参加していったのか。だが、どのような情報によって判断をしたのか、そのプロセスが検証されている。ブラウン首相は昨年11月、ブッシュ前米大統領が主導したイラク戦争

独立調査委員会のチルト委員長は、英政府がどのように参戦したのかを徹底的に調べることによって、将来、同様の事態に遭遇する場合に役立つ、と語っている。すでに公聴

だが、検証はイラク戦争だけでよいのだろうか。
イラク戦争もアフガン戦争も、2001年9月11日のニューヨーク世界貿易センター（WTC）ビルから

始まったのだ。このNYテロの検証が必要ではないのか。

れていたこと」「これらの調査の結果が、様々な専門的知識を持ち、かつ独立した研究者たちが到達したものと根本的に異なっている。この

が、参議院議員・藤田幸久編著「9・11テロ疑惑国会追及 オバマ米国は変わるか」（クラブハウス・1500円）だ。出版は2009年4月と少し前だが、いま店頭に並ぶ『週刊朝日』（1月22日号）が4ページにわたって「9・11NYテロ米建築家グループが再調査要求」という記事を載せているように、内容はちつとも古くない。それは藤田議員の立脚点がしっかりしているからだ。

ため「9・11に何が起こったのかを究明するための新たな、真に独立した調査をオバマ政権が承認するよう、要求する」というもの。
以上は藤田議員や犬塚直史参議院議員らが署名した「9・11の真実を求めめる政治指導者たち」の請願内容だが、先に紹介したイギリスのイラク戦争検証委員会と同様なものを9・11についても設置すべし、という主張である。

その立場とは、ブッシュ政権の下で2004年7月に「9・11委員会報告書」が発表されたが、この公式の調査は「ブッシュ・チェイニー政権と密接に連携していたり、雇用すらされていた者たちによって率いら

権威ある公の場で検証すべし、という立場から国会での質問もなされた。藤田議員は、2008年1月の参院外交防衛委員会で福田首相（当時）に「9・11というのはアルカイダあるいはアルカイダのみの犯行なのか。その根拠について総理からお答

えをいただきたい」とただし、WTCへ飛行機が突入したパネルを示しながら、疑問点を明らかにしていた。このあたりの詳細は本書で確かめていただきたいが、テレビ中継された藤田議員の国会質問はYouTubeで世界に配信され、EU議会の「9・11独立調査を求めるヨーロッパ」にパネリストとして参加するきっかけとなった。
政権党となったいま、はどうか。

先の『週刊朝日』のインタビューで「新政権になって、テロの被害者支援策として何ができるか、打ち合わせを始めています。再調査は基本的にアメリカ政府や議会がすべきことですが、日本としても、対テロ戦争の検証作業の一環として、9・11の再検討が必要です」と藤田議員は語っている。
新しい動きがつかれるか、乞う、注目。